

3 - 27 相模トラフ東部の海底地形・地質構造

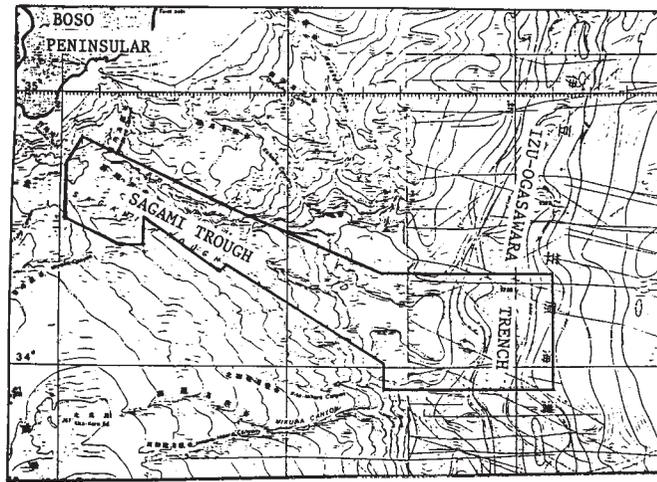
Submarine Topography and Geological Structure in the Eastern Part of Sagami Trough

海上保安庁水路部

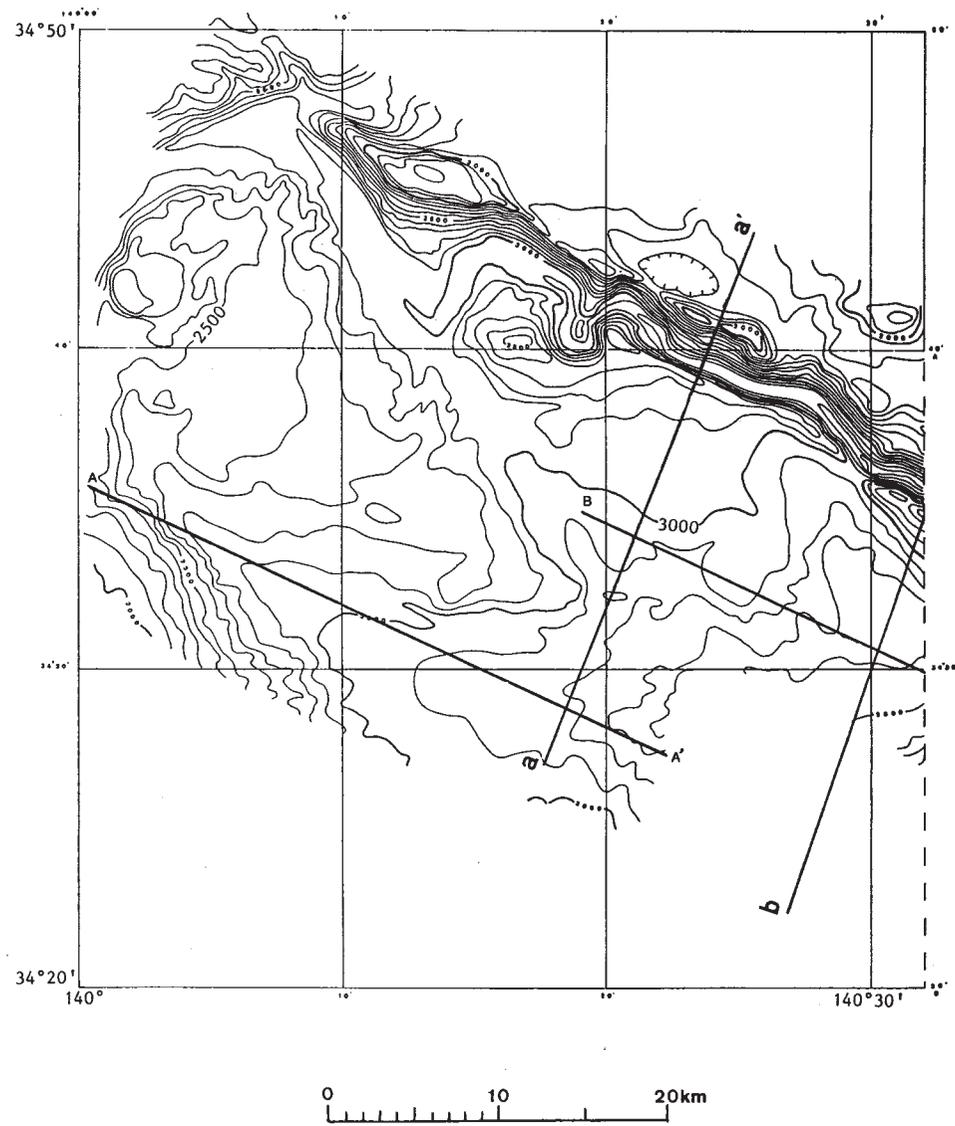
Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

昭和 59 年 5～6 月、測量船「拓洋」で実施した「相模・南海トラフ海底活構造調査」によって、房総半島南東沖の相模トラフ東部から伊豆・小笠原海溝にかけての海底地形・地質構造について新しい知見を得たので速報する。なお、海底地形については、ナローマルチビーム測深機（シービーム）によるものである。

- (1) 相模トラフ東部の北縁にある房総海底崖付近には、これまで崖に沿って雁行する細長い凹地が断続しているとされてきたが、これは、著しく穿入蛇行するひとつづきの海底谷（以下「房総海底谷」と呼ぶ。）であることが明らかとなった（第 1 図）。
- (2) 房総海底谷は、相模トラフ北縁に位置するが、 $140^{\circ}50'E$ 以西ではトラフ全体の谷底に位置していないことが注目される（第 1 図の断面図参照）。
- (3) 相模トラフの南縁にあるもうひとつの海底谷は、房総海底谷とは対照的な地形をしている。蛇行がみられないことはもとより、 $140^{\circ}55'E$ 以西では谷壁斜面が緩く、それ以东では狭谷となり、狭谷部分の谷底にはいくつかの凹地が連続している。
- (4) 相模トラフ東端部は、小さな海盆と南北方向の高まりを隔て、伊豆・小笠原海溝の平坦面へと続いている。房総海底谷の延長には、南北方向の高まりを切る谷が認められこの谷の末端には扇状地状の地形が存在する。
- (5) 相模トラフの縦断方向の音波探査記録（第 2 図）には、七島・硫黄島海嶺の基盤、相模トラフ下や伊豆・小笠原海溝の堆積層の状況をみることができる。

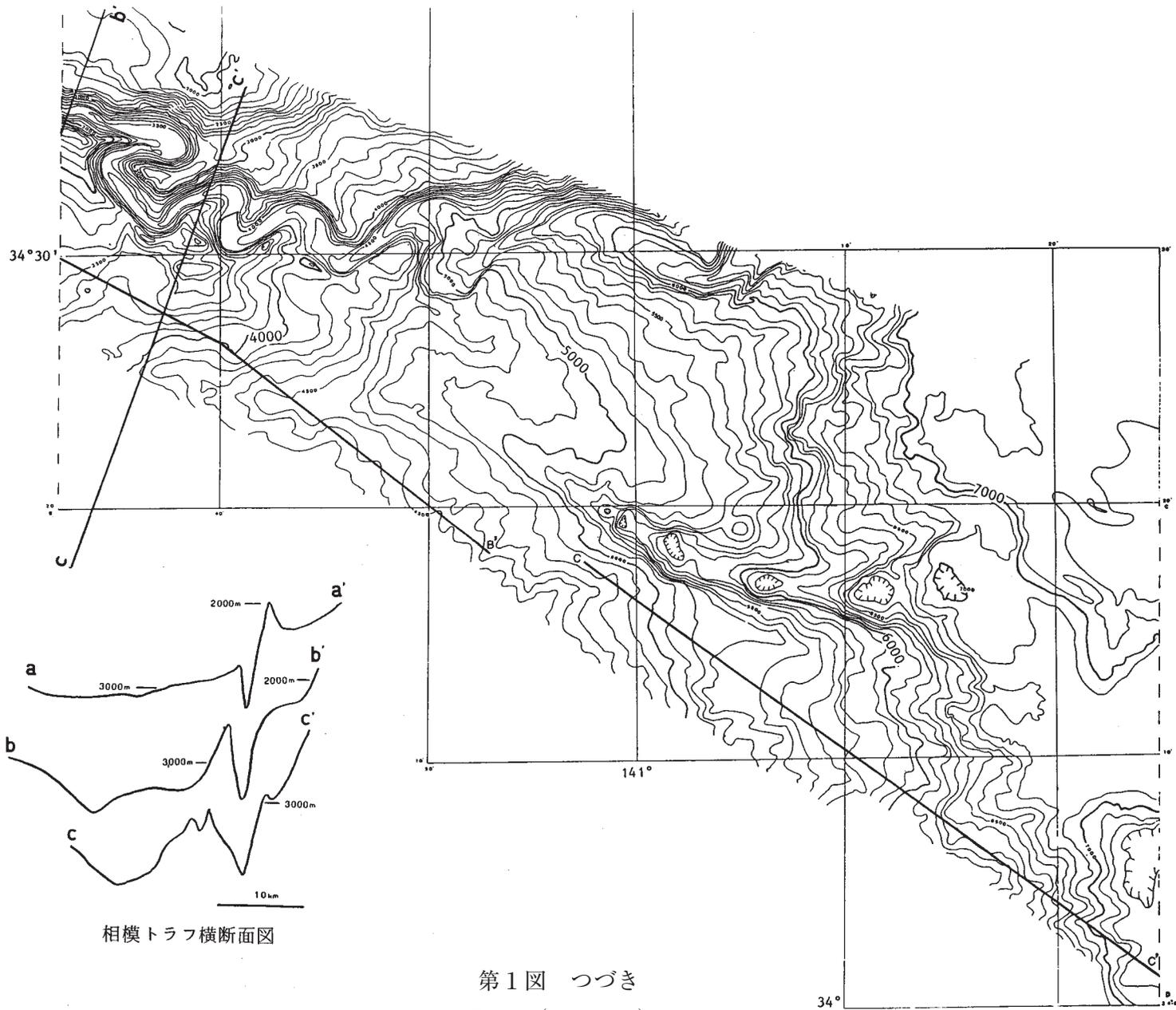


調査区域



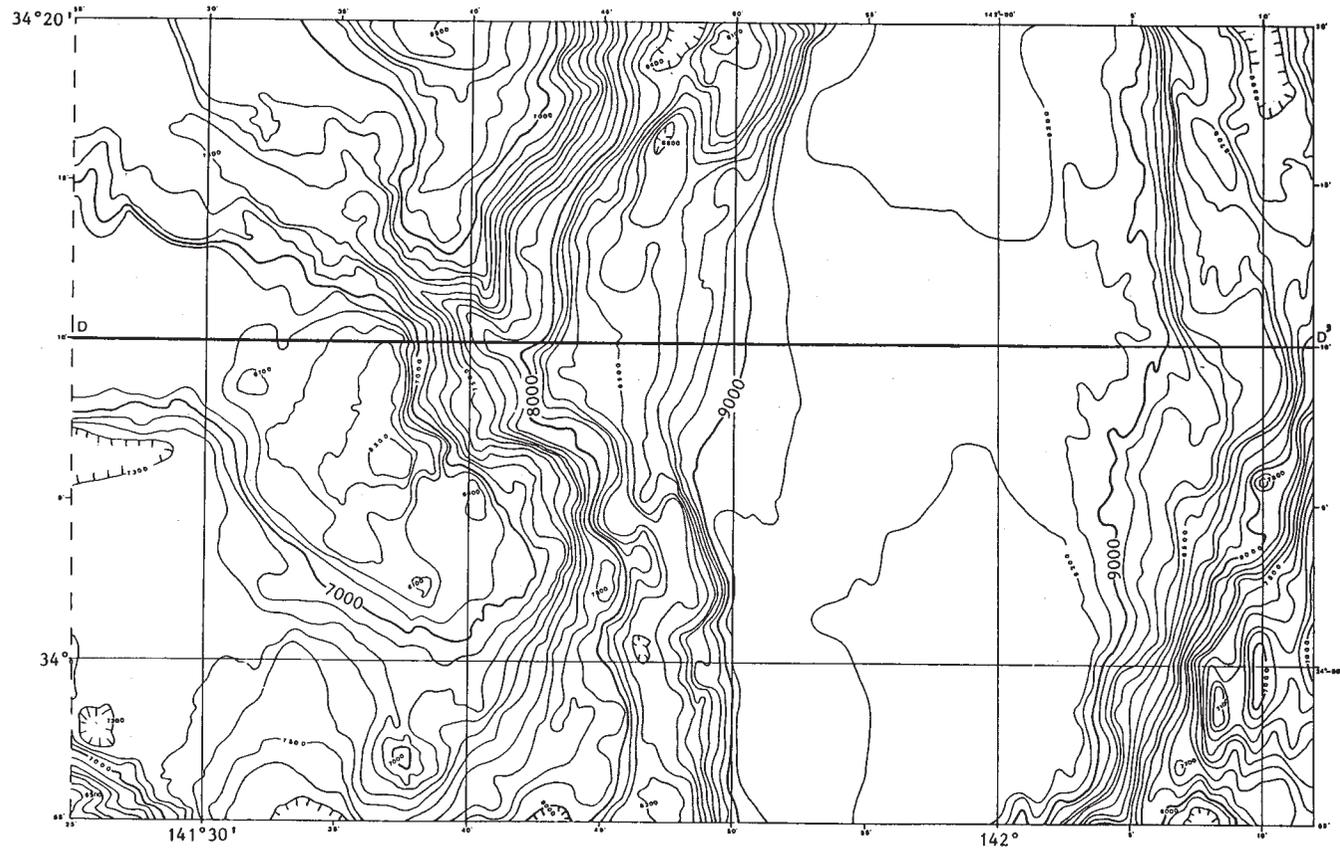
第1図 相模トラフ東部の海底地形, 等深線間隔 100m

Fig. 1 Submarine topography in the eastern part of Sagami Trough. Contour interval 100m.

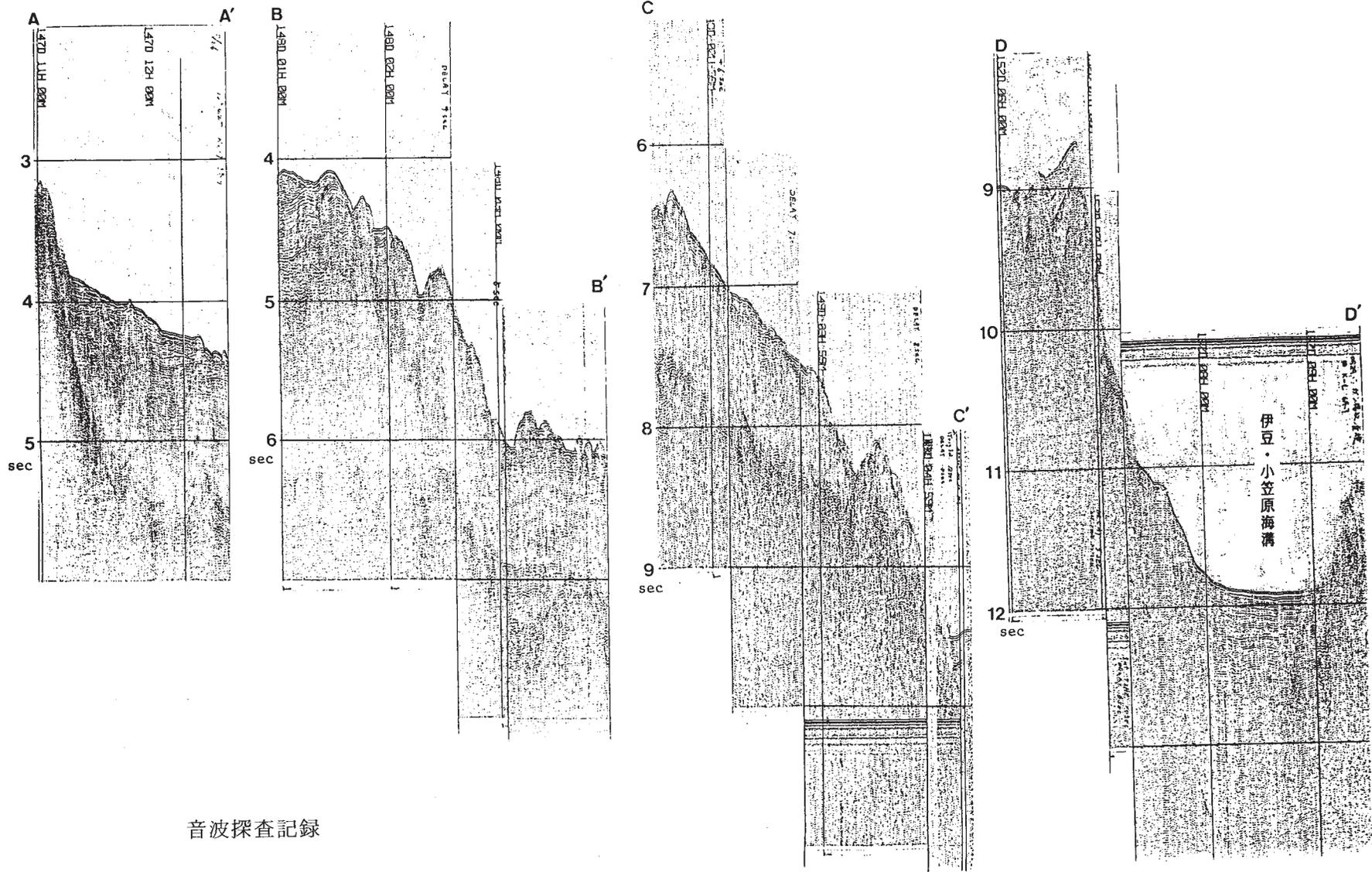


相模トラフ横断面図

第1図 つづき
Fig. 1 (Continued)



第1図 つづき
Fig. 1 (Continued)



音波探査記録

第2図 相模トラフの縦断面方向のシングルチャンネル音波探査記録

Fig. 2 Single channel seismic sections on the eastern part of Samagi Trough. Location are shown in Fig. 1.